

◆ 受け継がれたバトン ◆

本校野球部が秋季関東地区高校野球大会への出場を決めた。第71回大会から3年ぶりとなる快挙。昨年度は夏の甲子園大会が中止となり、その後の感染拡大により、様々な大会自体の中止等に加え練習試合も制限された。先月も本県独自の非常事態宣言による臨時休業のため、練習自体が思うようにできなかった中での成果である。

出場を決めた準決勝の試合。いつものように「不撓不屈 藤代球児」の横断幕が見守る中、保護者の皆さんが陣取る一角に加えていただいた。この状況なので大きな歓声はないけれど、抜けるような秋空の下、本当に気持ちの良い風が吹き抜ける。

序盤から優勢に試合を進めてきたが、中盤、1点差に迫られる。しかしながらその後7回に無死満塁の好機に打席が回ってきた1番打者が右翼手の頭上を越える三塁打を放ち、3人の走者が生還した。彼は、それまでの4試合で18打数11安打。

意識している言葉があったそうだ。今夏まで1番打者だった先輩から伝えられた。

「負けていても最後まで諦めるな」

多くの部活動が、制限された環境下でそれぞれに精一杯の活動を継続している。この地域の学校に赴任して5年目となるけれど、子どもたちの部活動の様子から、本当に多くのことを学んできた。

このメッセージでも以前記したように、最後まで諦めない姿を数多くの場面で目の当たりにした。昨年5月11日付けの「校長メッセージ」で紹介したM君は、今年母校に教育実習で戻った際、長く現役を続けるアスリートのお話に触れ、「諦めない姿」を子どもたちに伝えていた。

これからも多くの部活動で、多くの言葉が先輩から後輩へ受け継がれていくであろう。その一つ一つに込められる重さをどうか大事にして欲しいと思う。



気持ちの良い秋空の下、先輩から後輩へ、バトンは確かに受け継がれた。

(参考、引用：10月22日付 朝日新聞 茨城版)